

社会福祉施設連絡会 定例会

藤井寺市社会福祉施設連絡会が10月12日(水)午後1時半から社会福祉法人種の会 幼保連携型認定こども園 ななこども園(徳畑等園長)で、29名の会員出席で開催。

冒頭 奥田益弘会長から社会福祉法人制度改革に関するFAQや社会福祉法人の財務諸表等開示システムについての情報提供があり、大社協が開催している大阪しあわせネットワーク事例検討会への参加を呼び掛けた。

また、大規模災害時に福祉避難所の設置が課題として急浮上しており、施設連絡会として積極的に取り組むことが必要であると協力を依頼した。

事務

局前 原由幸氏から、災害時要援護者の受入時に関する概況調査の協力依頼と、各施設での募金箱の設置のお願いや、募金のお願いがあつた。



社会福祉法人種の会 見学

幼保連携型認定こども園 ななこども園は、大阪府認可保育園として、平成22年4月1日より、社会福祉法人種の会が運営する、0歳児から5歳児までを対象に定員135名の施設だ。



徳畑園長から、「みんなをみていく園づくり」の運営理念のもと、自然や文化に触れながら、リズム運動やサーキット

あそびでしなやかで丈夫な体をつくり、日本の伝統文化である和太鼓にも取り組んでいる。のどかな自然に恵まれた閑静な住宅街で、一人ひとりの子どもが主体的になって、子ども同士の関係性が発展していくような「集団づくり」をめざしている。説明を受けた。施設見学では、日頃園児と接する機会が少な



い会員たちは、机や椅子の可愛らしさにしばし談笑。職員が、園児一人ひとりに接する姿に触れ、のびのびと育っている園児の笑顔に接する事ができた。

事例報告

とっとり委員会

とっとり委員会では、支援した事例を持ち寄り、生活困難者支援のあり方を勉強。

藤井寺市生活支援課の松中義成氏から、自立支援事業の平成28年4月からの件

数報告があつた。

8月末で、相談件数は31件で男女

ほぼ同数。相談内容は、経済的困難、

就職活動困難の相談が多く、住宅

確保給付金の申請は前年の倍近い

件数となつている。

その後検討会を実施。

■事例①(高殿苑 大谷さん)

自殺未遂者への食材支援を行なつた事例。

利用者は30代男性独居。市保護課受付担当から連絡が入る。本人

が午前中に生活苦で首つりを図つたが死にきれず連絡。当日18時に利用者宅を訪問。

利用者は就労していたが、給与

未払いを受けている。そのため所持金もなく、食材支援を行なつた。自殺未遂を起こしているため、精神的不安定さがある。定期的な訪問と連絡を取り、支援者がいることを意識してもらい、孤立感を軽減した。勤務先が決まるまで、生活支援課による就労支援を受けるため、支援日に市役所に行くよう、確認の連絡を取つた。

■事例②(藤井寺特養・西矢さん)

失業による生活困窮者の就労までの食事提供や電気復旧支援を行なつた事例。

利用者は50代男性。民営借家住宅で独居生活を営む。

市自立相談支援担当から連絡があり、日常生活を営むために

赤い羽根基金を申請。劣悪な環境改善のため

電気復旧をする。また、就労活動にあたり必要との判断で、携

帯電話の滞納金を支

払う。

施設食堂での食事提供は、施設職員とコミュニケーションを図り、利用者に笑顔が見えるようになった。7月14日から新聞配達に従事。住宅確保給付金の申請も受領された。8月17日に給与の支給があり、経済的支援は終了したが、引き続き顔の見える援助のため昼食を提供している。



賀光会 野崎さんが発表

10月26日(水)、午後1時から全国社会福祉法人経営者協議会主催の「公益的な取組み実践事例発表会」が新横浜プリンスホテル・シンフォニアで開催。

この発表会には全国から52事例の応募があり、当日は19事例が発表の機会を得た。

当施設連絡会の賀光会 野崎浩司氏が「社会福祉施設連絡会で連携するソーシャルワーク活動」と題して、施設連絡会で取り組んだ事例を発表し、約450名の社会福祉法人役員や社会福祉に携わる方たちが熱心に耳を傾けていた。

野崎氏は、藤井寺市では一つの社会福祉施設が取り組むのではなく、同じ地域にある種別を超えた福祉施設が連携することで、「面」として支援できる仕組みを作り、地域または住民とのつながりを持ち地域福祉を推進していることを強調した。その為に2か月間に1回開催している藤井寺市社会福祉施設連絡会の中で、困窮者支



事例報告をする賀光会野崎さん

きこちり把握し、対応することができたことを報告した。福祉施設の人的資源、物理



野崎さんを囲んで、奥田会長他連絡会会員

援検討委員会（名称：とくくり委員会）として、CSWの相談経験、支援のノウハウや社会資源活用についての情報提供や勉強会を行ない、チームとして効果的な援助を生み出すことができていると説明した。

・ソーシャルワーク活動を通じて、地域の生活困窮者の生の声を聞くことができたこと。

・会員施設が、市社の協力の要請で、高齢、障害、保育、救護の領域を超えて相互に連携し、施設CSWがすばやく行動し、問題点を

的資源は困窮者支援として地域に活用されるべきであり、ニーズ対応型の社会福祉法人を現社会は求めていると結んだ。

福祉現場における コンサルテーション

日本のソーシャルワークにおけるコンサルテーションのスキル開発に関する研究調査（研究責任者：昭和女子大学大学院生活機構研究科福祉社会専攻人間科学部福祉社会学科 北本佳子教授）が、11月5日(土)午後1時半からシユラホールで開催、会員など26名が出席した。



北本教授から、福祉の実践現場では他職種等との連携・協働が重要課題となっている。ソーシャルワーク（相談援助）における応用を意識しながら、他職種等の連携・協働の実践方法としてのコンサルテーションについて、その基本事項と現

状を学ぶとともに、どのように実践現場で役ださせることができるかを考えていくことをねらいとしていると説明があり、コンサルテーションの方法として、自身が推奨する「プロセス・コンサルテーションモデル」で解説された。



施設CSWが参加したグループインタビュー

その後、グループインタビューを2班に分けて実施し、会員からは日頃の業務遂行のためのコンサルテーションを報告した。

赤い羽根 街頭募金活動



当会員約30名が参加して、11月8日午後6時から、藤井寺駅・土師ノ里駅周辺で街頭募金を実施し、市民の皆様の協力をいただいた。

次回定例会のご案内

日時 12月14日(水)
14時～15時30分
場所 好老会 第二ひかり

日頃、会議室のテーブルを囲んでいるメンバーだが、この日は和やかな雰囲気の中、時間を忘れて談笑しました。



藤井寺市福祉施設連絡会が設立して1年。走り続けたこの1年を振り返るために、10月12日夕方から、お互いの顔が見える関係作りをめざし、懇親会を開催しました。